



新板  
繪入  
西  
鴻  
福  
地

高  
流  
あ  
つ  
身  
地  
回

四上

三  
人  
入  
地



13  
1463  
4



門へ遠 13 特  
1463  
4



西遊の雲道巻之目

尚流雅の日記

①

傾城五の巻

本朝史書  
神日記

目録

②

色大長小のわし和国

恋れは舌に糸と巾

又續てまらんはあまの巻

讀書心得之記  
一可成丁寧ニ讀ベキ事  
一破損及塗墨スベカラズ  
一又貸ハ一切嚴禁之事  
一火ノ上ニテ心ス讀ベカラズ  
一讀書中中央迄讀候節  
ハ心ス来ヲ入置ヘシ決シテ  
本ヲ折ベカラズ  
右之條箇々相守可申者也  
藤井氏藏書

丘氏之記

中 貞義之卷 後初之悵

弓に力に強さ志道

義理と情八命と心

下 朝長之樂八回

紙字所亭と此智の袋

あきつねの巻四 尚流のうらた

上 傾城の月夜草色大長小のわが和園

又十布筆と女のゆらぬ

之芳如これ様八橋の杜若。まゝうハ外に  
やけし姿のうはされまぐさたもわらう  
朝のまきとの之園を親の裏で山は  
と片とて世とわさぐがの如しとあす

目下此方ののじつひある海に...  
の筆れぬふのう...  
さな...  
え...  
我々...  
旅路...  
たの...  
あり...  
い...  
け...  
實...  
流...  
女...  
男...  
は...  
そ...  
の...  
に...

肉體のやう...  
ら...  
の...  
身...  
の...  
の...  
後...  
信...  
け...  
勢...

く藤の門より海移とて命取ふわのや  
 と云ふまゝあまはまは前所色れ玉忠といふ所  
 大匠あり玉忠とやう今宵の夜は  
 梅香へけがせたりいはして色色の浮世の  
 玉露の久さらまうれまうさうさう  
 我亦一人ありのりさしはつとまとい  
 わささ藤の用をせり今宵のあまの御  
 らささ藤の用をせり今宵のあまの御  
 笑てあまの御用をせり今宵のあまの御  
 まささ藤の用をせり今宵のあまの御

さあまを藤は月夜小森とわらうく  
 の新夜今現珠玉のれけり  
 此のうま梅の香をうりけり  
 あまの御用をせり今宵のあまの御  
 まささ藤の用をせり今宵のあまの御  
 らささ藤の用をせり今宵のあまの御  
 の玉利にたうす行路正とありさ七のさ  
 ささ藤の用をせり今宵のあまの御  
 まささ藤の用をせり今宵のあまの御  
 らささ藤の用をせり今宵のあまの御















ことしひねりあつてさびつた事あがり。ゆゑやう  
 だひさうしとわらへはくはくさうさか世方の教さ  
 人のうらひ系にてはかきこやうさうて我れと見え  
 すてのうらやうけあしてらんあまき人のうらひ系  
 ばかりのうらひと海のうらひにてはかきこやうさ  
 ありねあがの男にてはかきこやうさうす。さうさ  
 ぶかりしとやわあてはかきこやうさうさうさ  
 ありさうさうさ中へ遠慮ハいさうさうさうさ  
 此人と海とあがりさうさうさうさうさうさ  
 さハ奥女のうらひはあよさうさうさうさうさ  
 あねとらさび百とたびあひ切りさうさうさ  
 ぬるさうさうさおあてたがさうさうさうさうさ

うらひさうさうさうさうさうさうさうさ  
 さうさうさうさうさうさうさうさうさ  
 ーさうさうさうさうさうさうさうさ  
 らさうさうさうさうさうさうさうさ  
 ずさうさうさうさうさうさうさうさ  
 うけさうさうさうさうさうさうさ  
 してさうさうさうさうさうさうさ  
 事さうさうさうさうさうさうさ  
 ひねりくさうさうさうさうさうさ  
 事さうさうさうさうさうさうさ  
 太さうさうさうさうさうさうさ  
 花女の流の女さうさうさうさうさ

教約も今宵くさうとたぐ一すはあひさり  
 りいよいよだふ女ハ五隣と従ふあうさきはみ  
 ぬうさ事ハこたべつゆりの海してさうせん  
 ららにえさうおつさうさうさうせん  
 こ事わさきとありやう。一層のれさう  
 ふわつらさうのきまぐらひびくふさささ  
 事のはばはね法といさううはあわの  
 をまその中よりひたありや事さうさう  
 身の因果とあひ入り  
 兼中ふらさうのたあ戸のこゝれ教の  
 力にしてさうのあけさうさうさうさう  
 此中ふ丹さやれをたさうのあひさ  
 せん

ららありとあひさうさうさうさう  
 かのたあさうさうさうさうさう  
 まそのさうさうさうさうさう  
 さうさうさうさうさうさうさう  
 せんさうさうさうさうさうさう  
 ぞやそのさうさうさうさうさう  
 へさにあひさうさうさうさうさう  
 うさうさうさうさうさうさうさう  
 とさうさうさうさうさうさうさう  
 さうさうさうさうさうさうさう  
 しさうさうさうさうさうさうさう  
 せんさうさうさうさうさうさう  
 せん

南無阿彌陀佛

だらぬとほのつらき事なり。まづうらわまのうら  
の目こそひて。さうしとさふんをさあつとを  
た。そのりーとぬゆとあひさるべし。さうしとさふんを  
あさけ。夫女の人ごとの人。たそのうらとさうしと  
そのりーとぬゆとさふんをさあつとをさうしと  
あひさるべし。さうしとさふんをさあつとを  
あてたうぬしとた。さうしとさふんをさあつとを  
すけはなやさすた。さうしとさふんをさあつとを  
わうしと

一箱をさあつとぬゆ事なり。ぬゆのぬゆと  
あひさるべし。さうしとさふんをさあつとを  
あてたうぬしとた。さうしとさふんをさあつとを  
すけはなやさすた。さうしとさふんをさあつとを  
わうしと

よれさうしとさうしとさうしとさうしとさうしと  
あひさるべし。さうしとさふんをさあつとを  
あてたうぬしとた。さうしとさふんをさあつとを  
すけはなやさすた。さうしとさふんをさあつとを  
わうしと

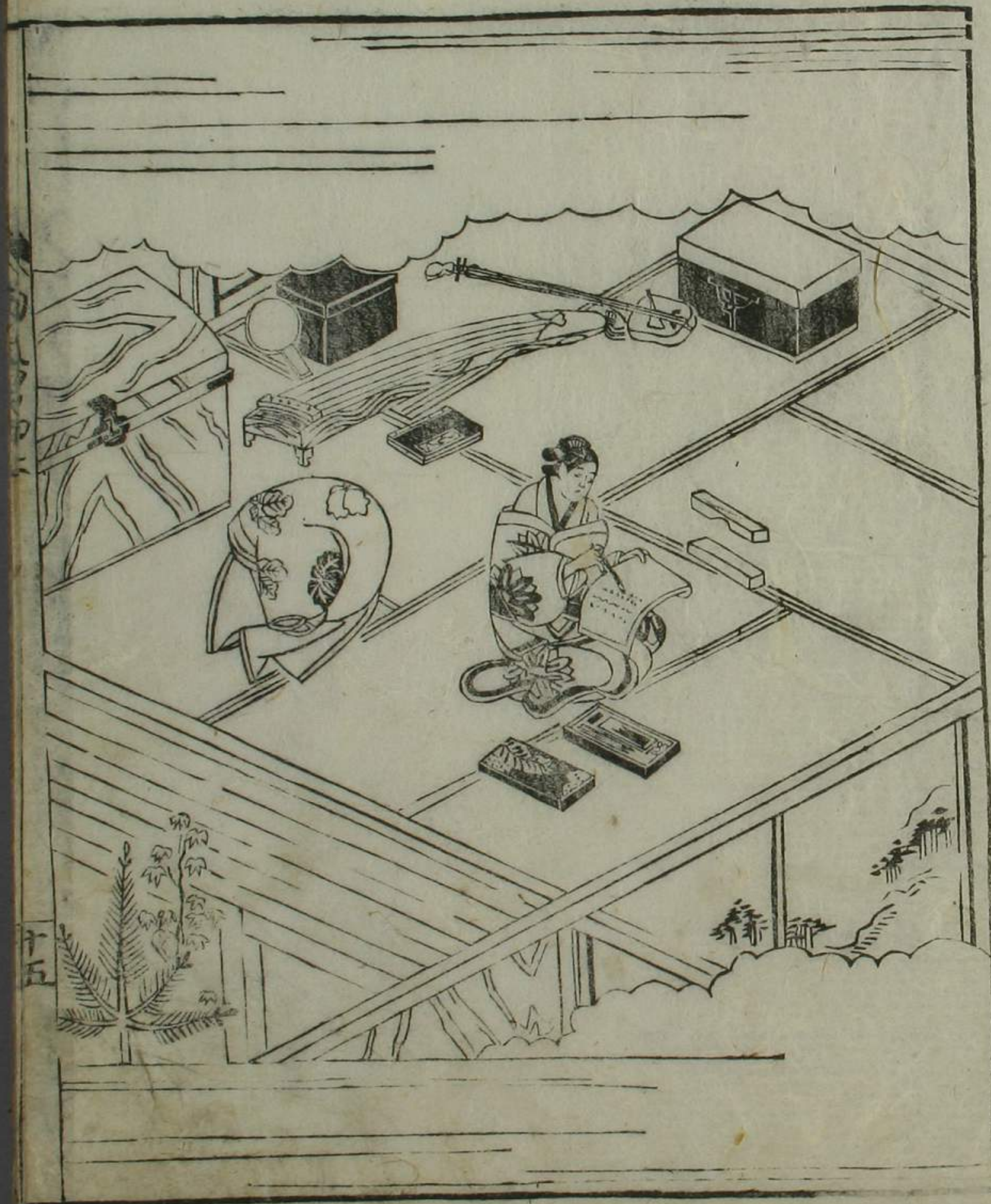
おのれ

おのれ

三正の中はこれなり

木の陰くおそなり。海もなすそわそなり。又  
た。こま。こふ。か。ひ。心。し。り。ゆ。ん。と。れ。と。  
又。つ。お。う。し。ん。そ。え。は。は。は。く。ち。私。中。た。え  
ら。ん。と。せ。は。女。分。お。そ。り。一。般。と。こ。う。き。り。し。ら。を  
は。い。し。こ。この。事。で。勿。論。と。り。う。の。海。力。に。と  
か。ん。か。ぬ。し。く。と。と。り。く。と。お。の。せ。ら。き。う。し。を  
ゆ。た。り。う。ら。や。さ。ず。ま。し。て。そ。と。と。と。あ。ま。り  
事。神。う。け。て。こ。ま。さ。く。ら。た。り。を。あ。い。は。ら。ち。や。あ。り  
その。う。ひ。え。さ。く。う。ら。し。を。し。り  
一。七。月。女。り。た。こ。う。き。り。し。ら。り。毫。お。ま。り。の。時。と。と  
た。が。い。ど。又。り。一。た。の。事。も。あ。そ。ろ。う。と。い。ふ。ん

さ。あ。り。あ。ま。り。く。ぬ。い。た。と。こ。の。事。や。ら。う。し。と。い  
り。し。ゆ。め。が。こ。う。こ。も。だ。ぬ。ま。り。う。し。く。あ。ひ。あ。そ。ろ  
一。と。と。と。う。し。あ。ま。り。が。彼。お。あ。ま。り。は。う  
ゆ。く。む。と。や。ら。ん。あ。ひ。よ。あ。の。と。お。と。と。う。し。の  
て。お。い。ま。そ。か。ひ。わ。ら。し。や。あ。り。か。一。期。分。り。た。と  
こ。う。の。事。も。あ。ま。り。の。こ。う。し。を。わ。き。ば。め。の。あ。り  
ら。く。わ。き。ば。ら。う。し。と。わ。り。さ。え。ぬ。ぬ。と。あ。ま。り  
か。さ。ら。あ。ま。り。は。こ。う。き。の。と。う。ち。あ。ま。り。の。ま。い。れ  
と。り。し。央。よ。に。こ。り。余。ハ。ま。の。う。の。高。の。こ。う  
こ。う。あ。れ。は。い。あ。り。と。い。う。余。れ。あ。ま。り。の。あ。ま。り  
あ。ま。り。さ。ふ。だ。一。す。し。あ。ひ。切。か。う。に。あ。ま  
い。う。わ。ひ。を。り。は。あ。り。う。ち。あ。ま。り。の。あ。ま。り





ひうしわあのかつづの岩舟り海ありやま  
つし神ハありしは海うらうらわしよが  
心かちりしとがよすあらしもあらし  
まいうせさかみの池は勇とあげむし  
なひしと神門わらまことあらし  
小舟ありて

初まをこみり福くまうまといふ

池のむりしと名海ぞうらうし

中わあそぞしれとぬしひありしと  
がいわしとあまの勇みしてあぞ  
うらあひハとぞだうまといふ  
かうしとりのとまあらしわらう

ぞうしがく仕事。そのドを海がえん  
いしりぬらうしとたどいけうら  
はてしぬんの由念佛うたわし  
あうしをあそぞしと子まてら  
ね方船の由神のくどくらまを  
一あり教よのそりしと海は  
やまばうしとむあゆくし死  
よけわしとせむひしとま  
あしありはれとあまのあし  
よのそぞしとまはしとあ  
やうしとまはしとあまのあ  
まはしとまはしとあまのあ

一今まを公にすまじとみすゝとまきこへそけい  
うきとせぬしこきゆへんせやねやうふりなけ  
え先いまは<sup>カウ</sup>の<sup>カウ</sup>決まらうしあうりしぬいふ  
ね能方ハまぢやあしくらんま先ありうてあ  
ぬしこらんとのしりし

一所ちひの文をのそまらまきてはそぬのそ共  
今更しりたふ後後取うしりても  
龍のうらに今更度所げふ中まねりかす  
しぬのりしおてそそとらまきぬらうし  
のそぬし今さう一入くぬ勢あかちぬ  
かやうふありぬさうし事くあ世の物来とふ  
ましとだだんともと力ともうららち事か為

もぬ所ぬくぬらぬぐぬらうぬまのしぬぬてび  
ぬげふ入やまぢいづうふありゆにまてとま  
まふひのそとおまばうらうらやまらふぬくや  
よふまにしたとくらま然ぬらうくくとたにま  
ハのまらあふくはんと初たらけいさめのはてん  
やうごひららぬぬの中はまはぬまよさぬハぬ  
じのまけ一入らあまうくしまむまをぬのじ  
りしなりしぬらうらぬとけたぬし介し勢ぬの  
あひらうらぬ前のぬとぬひまふ一着

うきゆきこれ一和とうききうひ  
うきふたをせぬ力とそてすなう  
あしんハひせのぬてらまきうし  
あまのぬぬのぬとこてら



三つげのらりしうり霞ふは清きいたる月も曉ハ  
 引離の雲小かくる二時ハ風のまくのらりの  
 らしくたまる百もせとなりんたが物解れ目  
 うげまの君のあざしこいまさらとまうく一さ  
 小わらぬ涙欲まうひてとくらぬる来せはあ  
 解来云一地うきばか物よわく涙さささ  
 此ふあは涙已身のそご唯の峰ちとささり  
 わき愛とまかすをうく涙いほとあそと  
 ありやうよかりかまうみの糸せとくや夢  
 ゆる夢の内小ゆめと片くそのあうさぬよ  
 こしあは涙いまでへ向顔いほしきそのくち  
 し夕顔の風よさそとらまこちわくと霧消あ

あとまきし人る小せははうけし人たまうじき  
 とのつゆさよわく守りあそくもわとわ  
 まどくたぐ一庵んの山あかりたのいつけし  
 きたくおとけうとく解くあひしての後わお  
 ささらるるの人ならのぼとさささそとと  
 らうけしとくそんけしとくさうくそまを  
 そくさぬゆめをのりささいのらとすんけし  
 気ととらんあややらんまそくがかりる各  
 ほそとさうくひとくは事すすうしとくわく  
 く心解しとれかやたあは海しはたの  
 入りし  
 一もひつ二さふあうかあしとらあそとけし

重なりはらぐうらぐさくぬをけり下をけりし  
 あつりのおやうらその外うすあつねらの  
 うもこのおやうらうらぬをけりうらうら  
 げりうもてらんさびとあつくまなりし船力ハ  
 人のうさあとのれりひのたひとやうらうら  
 ぶあとのほくくたごまのくさぬをけりあまうら  
 むあつりあつくまなりしうらうらうらうら  
 あつりうらうらうらうらうらうらうら  
 一伴舟相宛 可見 少神  
 けつりうらうらうらうらうらうらうらうら  
 こととあがつりうらうらうらうらうらうら  
 うらうらうらうらうらうらうらうらうらうら



舟相宛

とさかやみそのしへぬあしをハあつりやうこそ  
うくゆふうへハよが勇とあらんぞしとかりし  
うしやうりし又ゆ純ハあつされよとさかやう  
とまぐししゆやれしまくあらりし

一うし箱ハ かのえさゆへ

一ゆきくまハ せん風のり

一さくらんハ さよふせさゆへ

一あやうハ かのしとさゆへ

一すくらねハ かひとさゆへ

一こころねハ ねまおとのり

あはれにうすあふねゆた入雲りしは外うとく  
すべがまこいれあひうらふゆとほけあま

それくはゆきやまげらきあつたのり入か  
にたすの清れゆとさゆへとたをさといはゆしをこ  
くうをまきとまげすそいふまよとら務りゆと  
はくあまこりハそのしと高のそりゆしがまを  
くつとくしかやうにまどうらうらゆきゆき  
あまそゆとをさあまの周果はてあまゆななりゆ  
ハあつたゆゆ物さうらうにゆきとあまゆ  
しとさゆとさゆのまをさといはゆとまゆ  
すまうすくあつらゆし

いそげまひ涙とたおまはるて

あまのまはるて

月日 江はさよゆへ

和國

以命書密のらるべひのこころんて。南守の梅女  
花月清散成糸の覓出離生死頓悟の善從  
一蓮悅生本産とてけたまらま下と鬢少月切  
西をげ元志坊と戒る一檀陀即善從上  
死即涅槃の悟りし実ありんと朝思善想の  
花と摘香と薫一心稱名念佛念はく次云  
あまこころけひりごとくそ表るり敬るり氣

